

ここがおすすめ！歴史的な建築物

「日本最古の洋風木造
2階建て建築物」

旧鹿児島紡績所技師館(異人館)



- 建設年 1867(慶応3)年
- 所在地 吉野町9685-15
- 料金 大人200円 小・中学生100円
- 問い合わせ 異人館 ☎・FAX247-3401



文化財課 坂上 慎哉 主査

異人館が伝える歴史の動き

鹿児島紡績所で技術指導をするため英国人技師7人が生活していた異人館は、英国人が設計し、日本人が建設した和洋折衷の造りになっています。もともと磯地区に建てられていた異人館は、鶴丸城跡地へ、そして現在の場所へと2回移築されています。



「当時の生活を再現した家具が並びます」

発掘調査で判明した当初の建設場所(現所在地横)

気候や文化の違いを感じられる建物

暑さ対策のベランダや湿気対策の漆喰壁など、洋風の建物でありながら日本の気候に合わせた工夫がされています。

当時、日本の建物は障子を使っており、西洋でも日本と同じように座って扉を開け閉めすると勘違いされたことから、ドアノブがかなり低い位置に設置されています。また、扉の端付近に取り付けたことで、開閉時にドアノブが枠にぶつかったため、枠を削った跡が残っています。



「ここに注目」

そうだ、建物を見にまちへ出よう。

皆さんは、建物に注目してまち歩きをしたことはありますか。鹿児島県立短期大学で建築学を学ぶ私たち編集サポーターが、建物を通して見る“まちの魅力”を紹介します。



歴史的建築物の おすすめポイント!

暮らしの中にある 建築の魅力を紹介!

再開発で変わる まちの姿に注目!

新越 かなえ 高見 菜奈 藤崎 流風 山内 映里奈

鹿児島の建築の特徴を 専門家に聞きました



鹿児島の建築の特徴は何ですか?

古くからある民家は台風をしのぐため平家が多いのが特徴です。また、市街地のほとんどは戦争で焼失しましたが、地元の建築家が設計した意匠性の高い鹿児島中央高校や県立博物館などが残っており、戦後も地元の建築家によって設計されたものが多くあります。



interview

鹿児島大学大学院 理工学研究所 藤坂 徹 教授

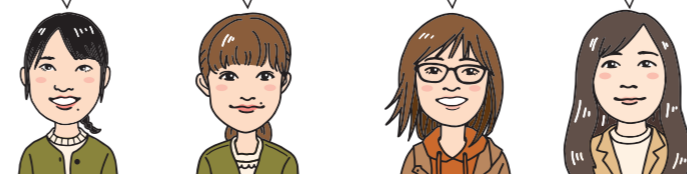
鹿児島の建築に求められることは何ですか?

建築は全国統一基準ではなく、風土や風景を尊重し追求することが求められると思います。鹿児島には桜島があり、その風景を尊重し、降灰の対策をすることなどが大切です。

まちを保っていくために大切にすることは?

まちの人が建築の価値に気づき、未来に残したいと思ってもらえるようになればいいですね。そのためには、自分のまちへの理解を深め、美しい景観を知り、相互に交流することが大切だと思います。そうすると、鹿児島の風土は守られ、住み続けたいまちが受け継がれていくのではないのでしょうか。

今回の特集記事は、建物の歴史的な背景を知ることができ、再開発によるまちの変化に気付くきっかけになります。皆さんも、建物に注目してまちへ出掛けてみてください。



再開発で変わるこれからのまち

「鹿児島の玄関口」

中央町エリア(中央町19・20番街区)



パース図

- 完成予定 2021(令和3)年1月頃
- 高さ・階数 約100m、地上24階・地下1階
- 延床面積 約4万7700㎡
- 問い合わせ 市街地まちづくり推進課 ☎216-1388FAX216-1398



interview

中央町19・20番街区 市街地再開発組合 庵下 龍馬 理事長

駅前にふさわしい施設に

県内一の高さになる商業施設とマンションの複合型施設で、災害対策や駅前にふさわしい景観づくりのための工夫がされています。

商業施設は制震、マンションは免震構造になっており、5階の多目的ホールは、避難所の役割もあります。ビルが圧迫感を与えないよう、曲線を多く用いており、デッキで周辺施設ともつながります。



完成が楽しみ♪

再開発は人と人のつながり

一番街商店街や周辺地域の活性化のため建設に踏み切りました。再開発には長い年月とたくさんの方が関わっています。地権者やテナントなど関係者の皆さんの理解や協力は欠かせませんでした。

建設が進む様子は今しか見られません。完成を楽しみにして欲しいです。また、この新しい施設が幅広い年代の地域の人たちに愛され、市内外から多くの方が集まり、地域の活性化につながっていくことを願っています。



「日本現存最古の洋風工場建築物」

尚古集成館



- 建設年 1865(慶応元)年
- 所在地 吉野町9698-1
- 料金(名勝仙蔵園と共通) 大人1000円 小・中学生500円
- 問い合わせ 尚古集成館 ☎247-1511FAX248-4676



interview

尚古集成館 小平田 史穂 学芸員

得意分野を生かした建築

機械工場として使われていたこの建物は、現在、島津家の歴史・文化と集成館事業を語り継ぐ博物館・尚古集成館となっています。

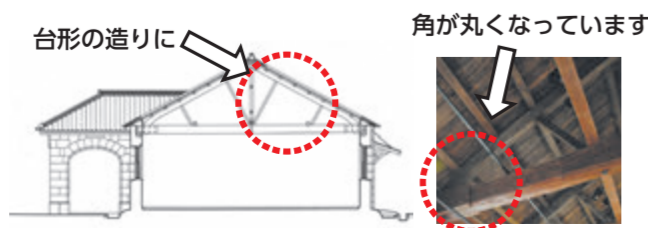
石造りの壁は、小野町で採掘される小野石(溶結凝灰岩)が使われています。鹿児島は、古くから石の加工技術が発展していたため、使い慣れた石材で建築物を建てていました。



「手掘りの質感を触って体感!」

見よう見まねで頑張って造った

西洋の建築方法を取り入れようと思っよう見まねで造られ、屋根を支える小屋組がトラス構造(三角形の組み合わせ)を基本に造られています。しかし、構造への理解が不十分だったため三角ではなく台形や丸い角になっている部分があり、当時の技師が試行錯誤していた様子が垣間見えます。



台形の造りに

角が丸くなっています

「南九州最大の繁華街」

天文館エリア(千日町1・4番街区)



パース図

- 完成予定 2021(令和3)年12月頃
- 高さ・階数 約60m、地上15階・地下1階
- 延床面積 約3万6500㎡
- 問い合わせ 市街地まちづくり推進課 ☎216-1388FAX216-1398



interview

千日町1・4番街区 市街地再開発組合 牧野田 栄一 理事長

やっぱり、待ち合わせは“タカプラ前”

もともとはタカプラなどのビルがあった区画の再開発。新たな建物には、商業施設やまちなか図書館、展望スペースなどを計画しており、赤ちゃんを連れたお母さんや勉強をしに来る学生など幅広い人たちに利用してほしいです。天文館がにぎわって、再び「みんなの待ち合わせ場所」になってほしいです。天文館は市民や県民にとって宝ですから。



天文館を元気に

再開発ビルの良さを知ってもらうため、工場の壁に完成予定のパース図を載せたり、ホームページなどで情報発信したりしています。この再開発をきっかけに天文館がさらに元気になり、多くの人でにぎわうことを期待しています。



「工事が始まりました」

「壁にも注目!」